

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成28年 7月～9月 実績

平成28年 10月～12月 見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 平成28年7～9月期実績及び平成28年10～12月期見通し
7. 調査時点 平成28年9月1日（木）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

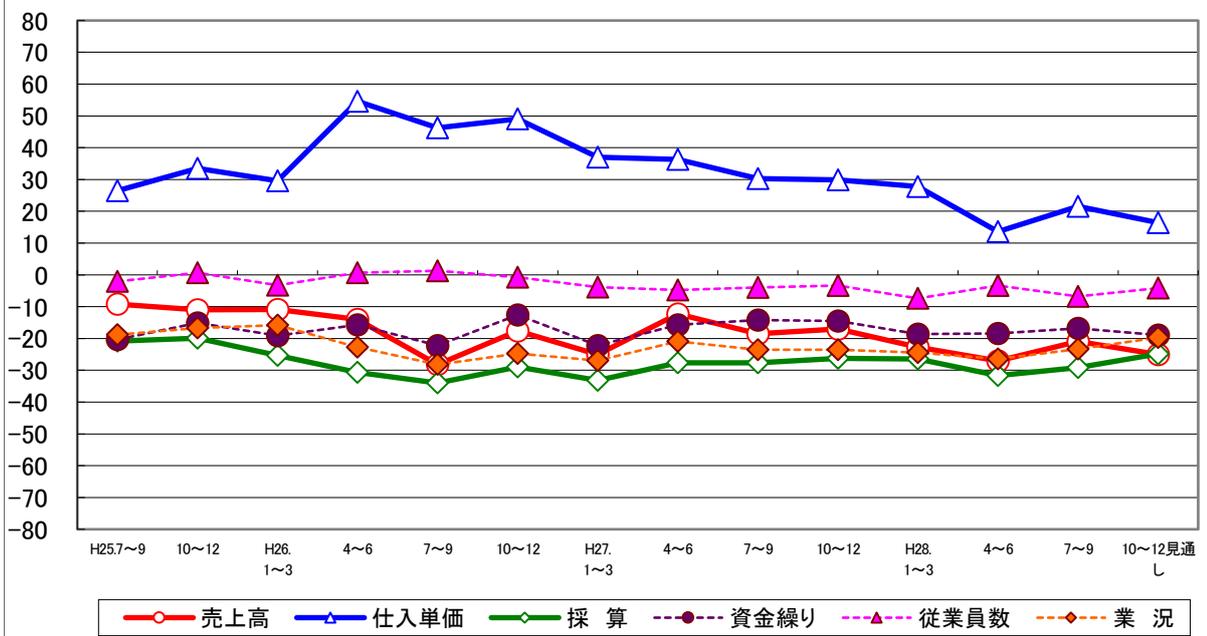
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所 教授 南保勝氏

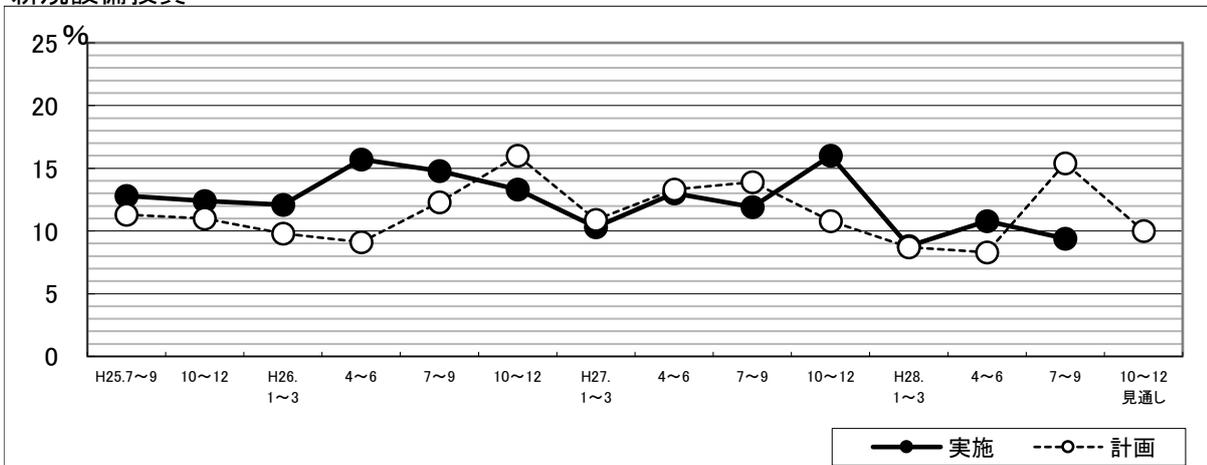
全体（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向推移（前年同期比：DI値）

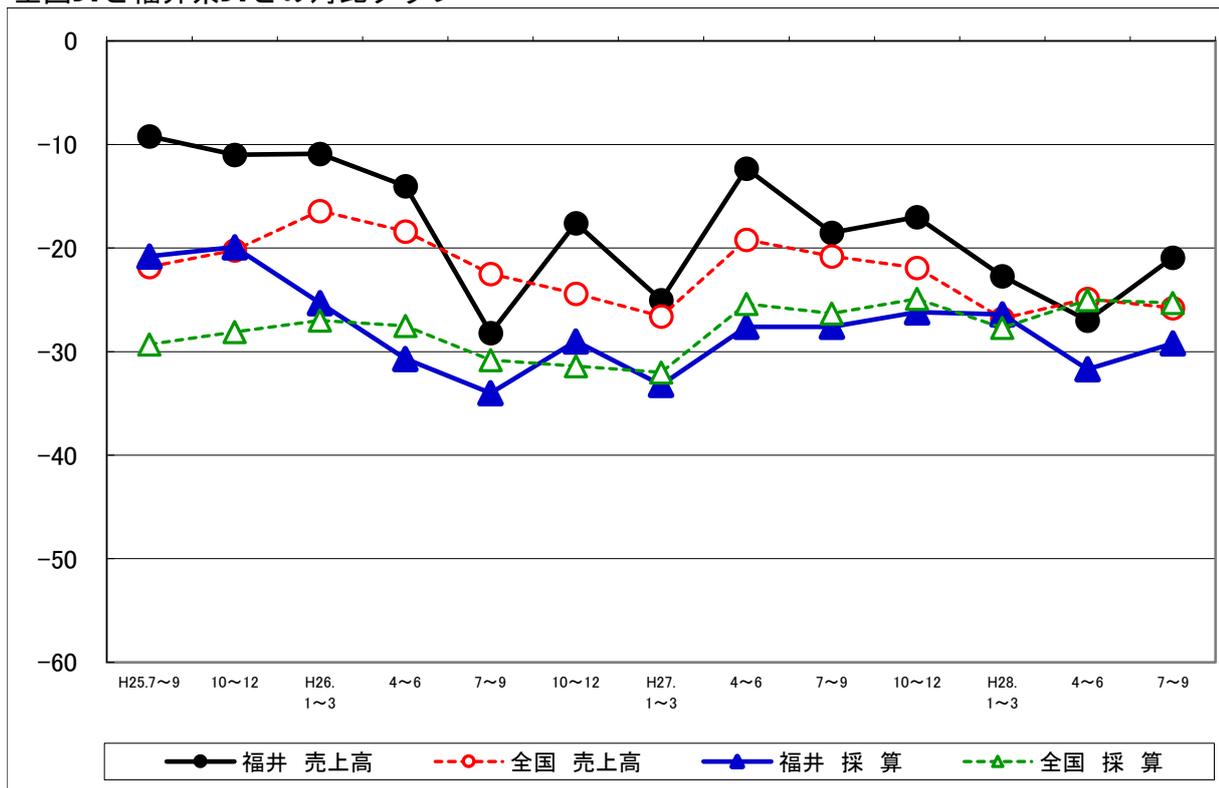
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H25.7～9	▲ 9.2	26.5	▲ 20.8	▲ 20.3	▲ 2.0	▲ 18.8
10～12	▲ 11.0	33.5	▲ 19.9	▲ 15.1	0.7	▲ 16.7
H26.1～3	▲ 10.9	29.6	▲ 25.3	▲ 19.1	▲ 3.3	▲ 15.8
4～6	▲ 14.0	54.6	▲ 30.7	▲ 15.7	0.7	▲ 22.7
7～9	▲ 28.2	46.2	▲ 34.0	▲ 22.2	1.3	▲ 28.2
10～12	▲ 17.6	49.1	▲ 29.0	▲ 12.6	▲ 0.7	▲ 24.7
H27.1～3	▲ 25.0	37.0	▲ 33.2	▲ 22.2	▲ 3.9	▲ 26.9
4～6	▲ 12.3	36.3	▲ 27.6	▲ 15.7	▲ 4.8	▲ 20.9
7～9	▲ 18.5	30.3	▲ 27.6	▲ 14.2	▲ 4.0	▲ 23.5
10～12	▲ 17.0	29.9	▲ 26.2	▲ 14.5	▲ 3.4	▲ 23.5
H28.1～3	▲ 22.7	27.8	▲ 26.4	▲ 18.6	▲ 7.4	▲ 24.4
4～6	▲ 27.0	13.6	▲ 31.7	▲ 18.4	▲ 3.4	▲ 26.4
7～9	▲ 20.9	21.6	▲ 29.2	▲ 16.8	▲ 6.8	▲ 23.3
10～12見通し	▲ 25.0	16.4	▲ 24.8	▲ 18.9	▲ 4.2	▲ 19.7



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成28年7-9月期の福井県経済を概観すると、大型店（百貨店・スーパー）で衣料品の動きが鈍いことなどから足踏み感が見られるものの、コンビニエンスストア販売、ドラッグストア販売等が堅調に推移、家電販売も白物家電中心に持ち直し感が出始めている。しかし、観光客入込が前年割れにあるほか、自動車販売なども精彩を欠く展開を強いられており、足踏み感も見られる。供給面では、繊維や眼鏡枠といった地場産業で製品別の生産状況にバラツキが見られるものの、基調としては電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に、機械関連も自動車変速部品中心に、化学も合成樹脂中心に堅調な生産・出荷動向を維持しており、業種間、企業規模間格差はぬぐえないものの、全体としては持ち直している。

こうした中、今期（H28年7-9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち売上高（前期▲27.0→今期▲20.9）、採算（前期▲31.7→今期▲29.2）、資金繰り（前期▲18.4→今期▲16.8）、業況（前期▲26.4→今期▲23.3）の4項目で改善。残りの仕入単価（逆指数）（前期13.6→今期21.6）、従業員数（前期▲3.4→今期▲6.8）の2項目で悪化となっている。ただ、全体としてみれば、その動きは僅かな変動にとどまっており、今期における県内中小企業の景況判断は概ね前期並みの横ばいであることがうかがえる。

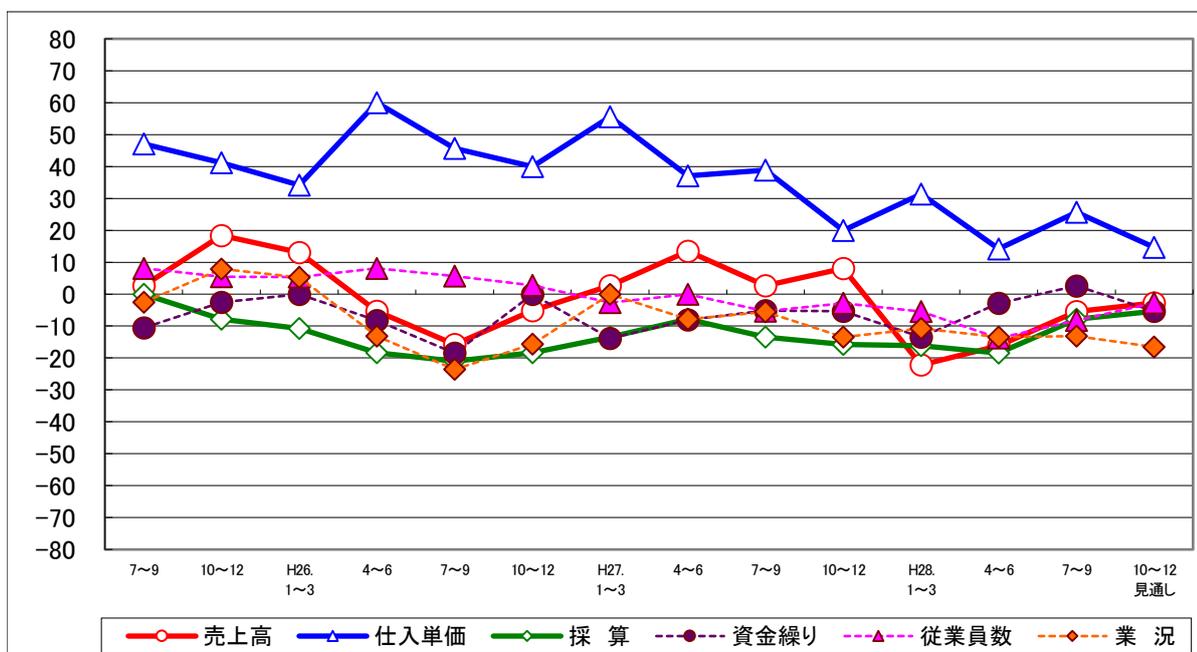
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、両項目とも福井県の改善が進む中、全国は悪化傾向となっており、両項目については福井県と全国との間で乖離幅が縮小する結果となった。

そのほか、今期の新規設備投資については、計画の15.4%に対して実施が9.4%と投資意欲の低下が見られたほか、先行き（H28年10-12月期）についても、何らかの投資を計画している企業が10.0%となっており、投資意欲に一服感がみられた。

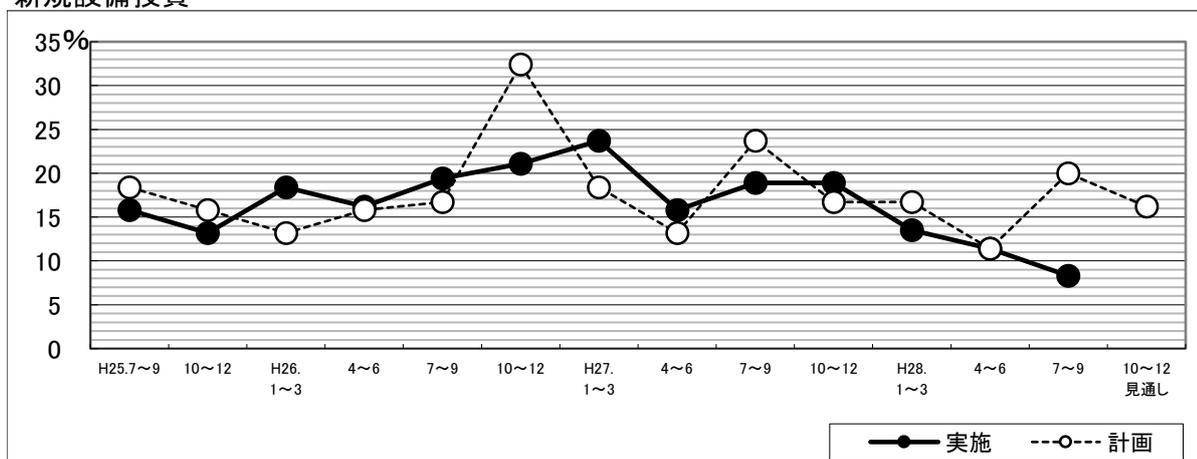
製造業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

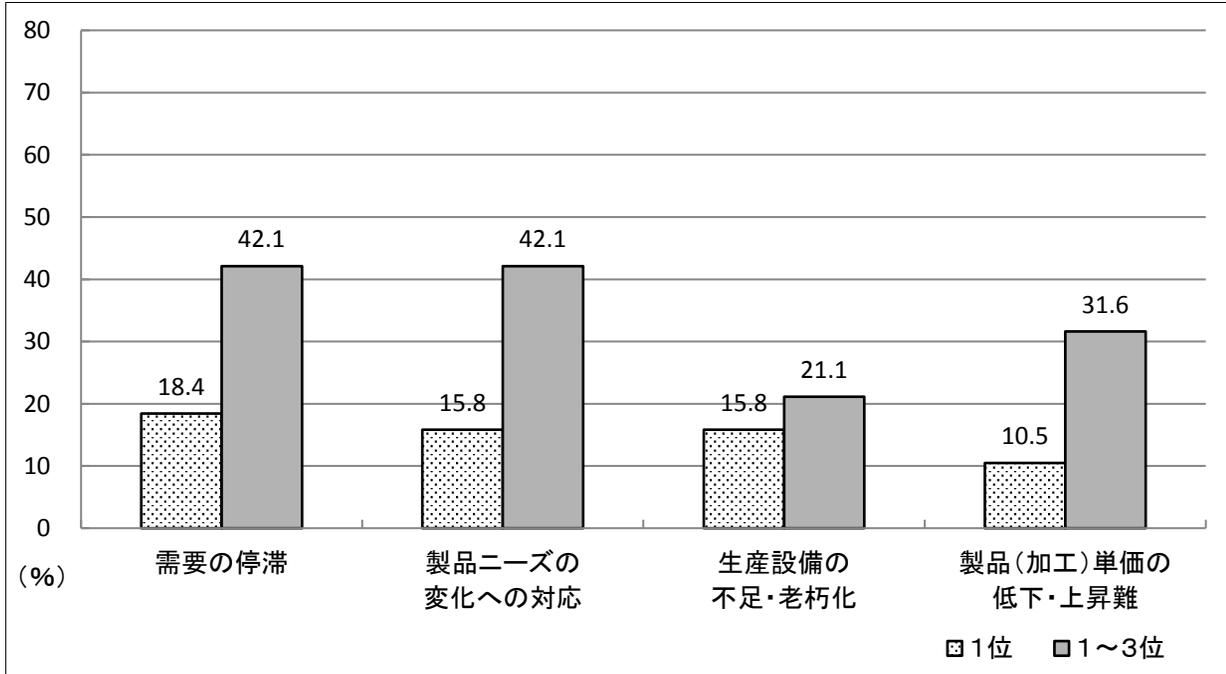
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7～9	2.7	47.1	0.0	▲ 10.6	8.1	▲ 2.6
10～12	18.4	41.2	▲ 7.9	▲ 2.6	5.5	7.9
H26.1～3	13.1	34.2	▲ 10.8	0.0	5.4	5.3
4～6	▲ 5.4	60.0	▲ 18.4	▲ 8.3	8.1	▲ 13.2
7～9	▲ 15.8	45.7	▲ 21.0	▲ 18.5	5.7	▲ 23.6
10～12	▲ 5.2	40.0	▲ 18.4	0.0	2.8	▲ 15.7
H27.1～3	2.7	55.6	▲ 13.5	▲ 13.9	▲ 2.7	0.0
4～6	13.5	37.1	▲ 7.9	▲ 8.1	0.0	▲ 7.9
7～9	2.7	38.9	▲ 13.5	▲ 5.2	▲ 5.4	▲ 5.6
10～12	8.1	20.0	▲ 15.8	▲ 5.4	▲ 2.9	▲ 13.5
H28.1～3	▲ 22.2	31.4	▲ 16.2	▲ 13.5	▲ 5.5	▲ 10.8
4～6	▲ 16.2	14.2	▲ 18.5	▲ 2.9	▲ 13.8	▲ 13.5
7～9	▲ 5.5	25.7	▲ 7.9	2.6	▲ 8.3	▲ 13.2
10～12見通し	▲ 2.8	14.7	▲ 5.4	▲ 5.4	▲ 2.8	▲ 16.6



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・製品単価が上がらないのに、人件費だけが上がっている。
- ・平均すると昨年度より増加していると思うが、ここ2～3年の落ち込みを回復できるまでには至っていない。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業では、主力の衣料品分野を中心に動きが鈍く、また自動車内装材向けも弱含んでいることなどから、全体では弱めの動きが続いている。ただ、眼鏡枠工業をみると、国内向けは横ばいながら、海外からのOEM受注が持ち直していることなどから、全体では緩やかに持ち直している。また、主力の機械工業では、電子部品・デバイスや輸送機械を中心に順調を維持していることから、全体では緩やかに回復している。そのほか、化学・プラスチック工業は、医薬品が高水準ながらやや弱含んでいるもの、合成樹脂等の化学製品が持ち直しつつあることや、プラスチック製品も産業資材が横ばいとなっているが、建築、建築資材が持ち直していることから、全体では持ち直している。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、仕入単価を除く5項目で改善傾向を示している。ちなみに、各項目の動きをみると、売上高が前期の▲16.2→今期▲5.5へ、仕入単価（逆指標）が前期14.2→今期25.7へ、採算が前期▲18.5→▲7.9へ、資金繰りが前期▲2.9→今期2.6へ、従業員数が前期▲13.8→今期▲8.3へ、業況が前期▲13.5→今期▲13.2へと変化している。

また、先行き（H28年10-12月期）については、資金繰りと業況を除く4項目で改善予測となっており、回復感は今しばらく持続することが予想される。

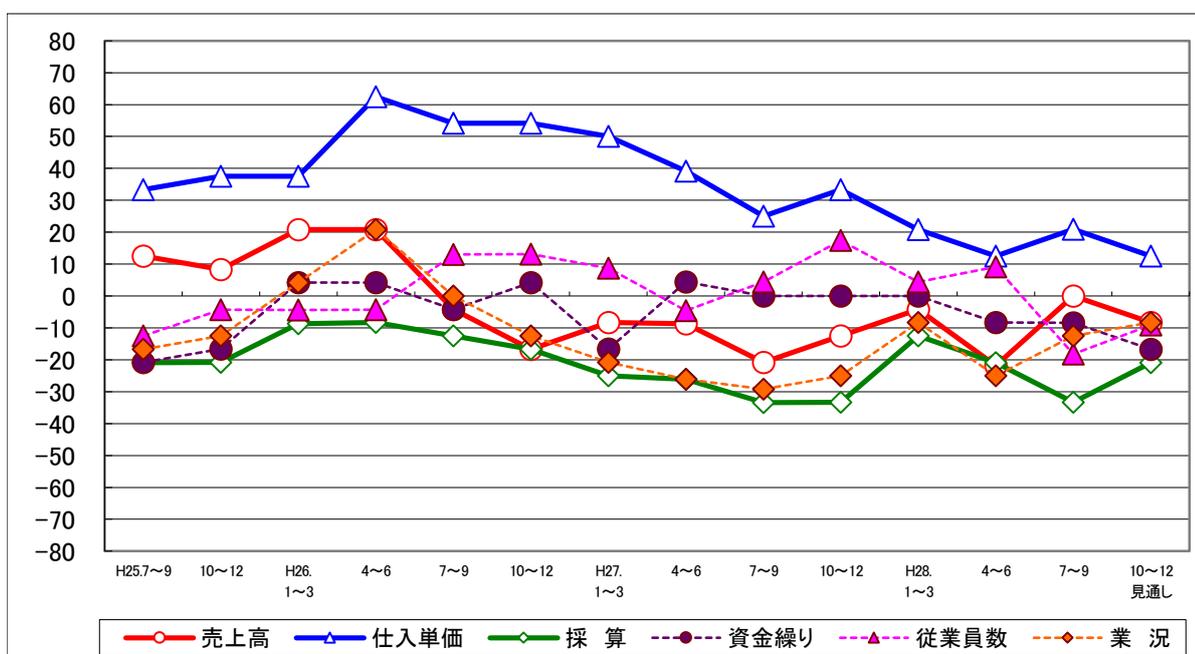
一方、新規設備投資の実施状況については、計画の20.0%に対し実施が8.3%と精彩を欠く結果となったが、先行き（H28年10-12月期）については何らかの投資を予定する企業が16.2%と比較的高い水準を示している。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」（1位に挙げた企業18.4%、1位～3位までに挙げた企業42.1%）への指摘が最多となったほか、「製品ニーズの変化への対応」（1位に挙げた企業15.8%、1位～3位までに挙げた企業42.1%）への指摘も多い。そのほか、「生産設備の不足・老朽化」（1位に挙げた企業15.8%、1位～3位までに挙げた企業21.1%）への指摘も目立った。また、個社別の声としては「製品単価が上がらないのに人件費だけが上がっている」、「業況は昨年より良いが、ここ2～3年の落ち込みをカバーするまでには至らない」といった記述が寄せられている。

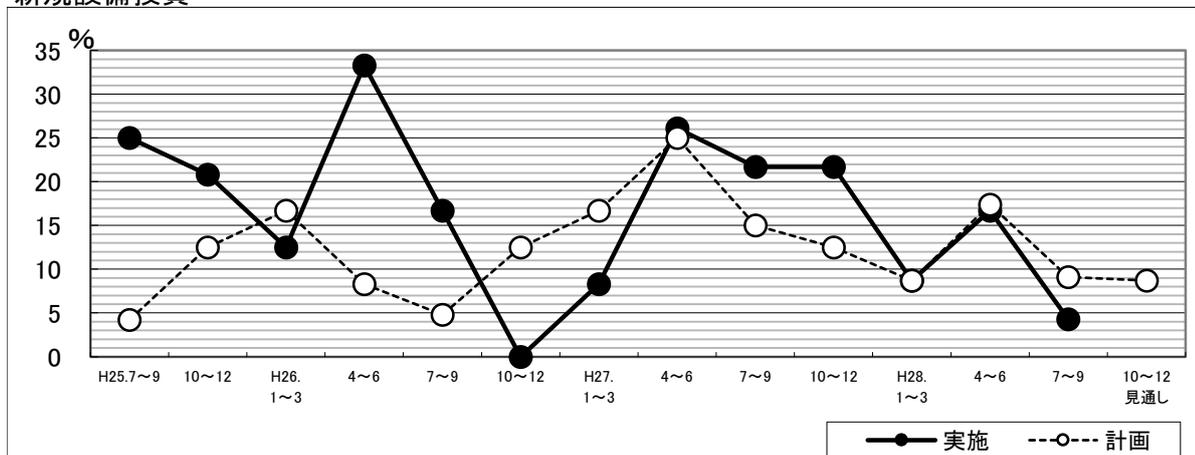
建設業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

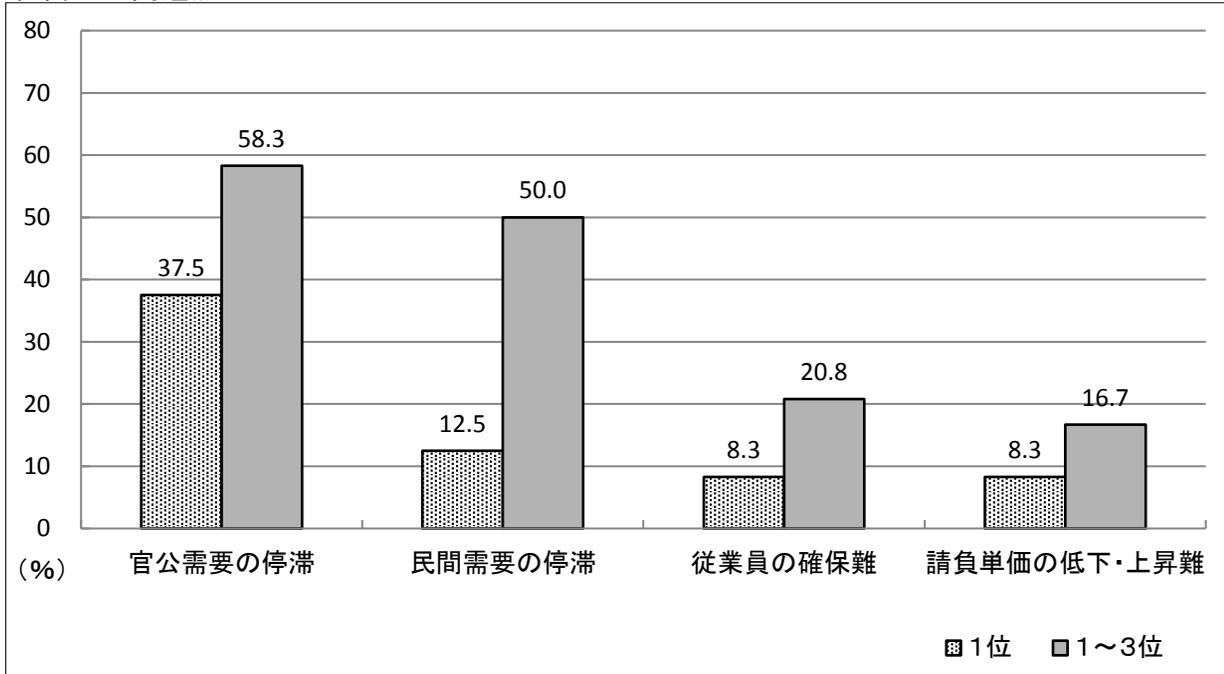
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H25.7~9	12.5	33.3	▲ 20.9	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 16.7
10~12	8.3	37.5	▲ 20.8	▲ 16.6	▲ 4.3	▲ 12.5
H26.1~3	20.8	37.5	▲ 8.7	4.2	▲ 4.4	4.2
4~6	20.8	62.5	▲ 8.3	4.2	▲ 4.3	20.8
7~9	▲ 4.2	54.2	▲ 12.5	▲ 4.2	13.0	0.0
10~12	▲ 16.7	54.2	▲ 16.7	4.2	13.1	▲ 12.5
H27.1~3	▲ 8.3	50.0	▲ 25.0	▲ 16.6	8.7	▲ 20.8
4~6	▲ 8.7	39.1	▲ 26.1	4.4	▲ 4.6	▲ 26.1
7~9	▲ 20.8	25.0	▲ 33.4	0.0	4.4	▲ 29.2
10~12	▲ 12.5	33.3	▲ 33.3	0.0	17.4	▲ 25.0
H28.1~3	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	0.0	4.4	▲ 8.3
4~6	▲ 21.8	12.5	▲ 20.9	▲ 8.3	9.1	▲ 25.0
7~9	0.0	20.9	▲ 33.3	▲ 8.4	▲ 18.2	▲ 12.5
10~12 見通し	▲ 8.3	12.5	▲ 20.9	▲ 16.7	▲ 9.1	▲ 8.3



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 請負金額が低下する中で、材料価格や人件費等の上昇で利益率の確保が難しい。
- ・ 官庁発注は建設業全体では高い水準であるが、専門分野への発注は大幅に減っている。建設工事においても設計額の低下傾向が大きくなっており、今後の推移が心配。

建設業の景況

福井県内における平成28年度（28年4月－9月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で811億50百万円の前年同期比12.8%増、発注件数は同1,985件の同1.7%増となり、発注額、件数ともに前年度同期を上回っている。これを主な発注者別でみると、国家関連工事（80億45百万円の同34.9%減）や市町村関連工事（261億66百万円の同9.9%減）で減少したものの、県関連工事（233億21百万円の前年同期比10.8%増）や独立行政法人等（215億26百万円の同239.3%増）での増加によって全体を引き上げていることがわかる。また、住宅投資については、平成28年4月－8月までの5か月累計で、前年同期比0.6%増の1,824戸となった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比8.6%増の1,164戸、貸家が同17.4%減の492戸となっている。

こうした中で今回の景況調査を見ると、売上高（前期▲21.8→今期0.0）、業況（前期▲25.0→今期▲12.5）の2項目で改善した以外は悪化傾向を示している。ちなみに、悪化した項目を見ると、仕入単価（逆指数）が前期12.5→今期20.9、採算が前期▲20.9→今期▲33.3、資金繰りが前期▲8.3→今期▲8.4、従業員数が前期9.1→今期▲18.2となっている。また、先行き（H28年10－12月期）については、売上高と資金繰り以外、残り4項目は改善予測となっており、やや改善が見込まれる。

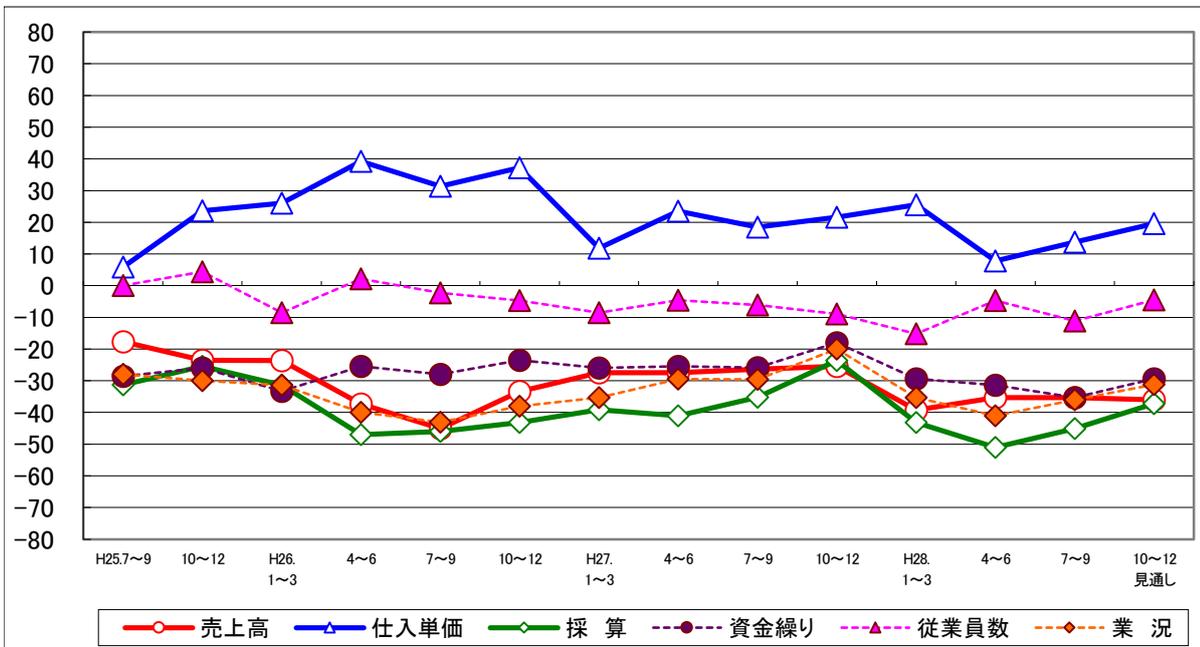
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画した企業9.1%に対し実施した企業が4.3%にとどまり、低調なものとなった。また、先行き（H28年10－12月期）については何らかの設備投資を計画している企業が8.7%となっており、投資意欲はやや弱含みの展開が続くことが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「官公需要の停滞」（1位に挙げた企業37.5%、1位～3位までに挙げた企業58.3%）への指摘が最も多いが、「民間需要の停滞」（1位に挙げた企業12.5%、1位～3位までに挙げた企業50.0%）も比較的多い。そのほか、「従業員の確保難」（1位に挙げた企業8.3%、1位～3位までに挙げた企業20.8%）、「請負単価の低下・上昇難」（1位に挙げた企業8.3%、1位～3位までに挙げた企業16.7%）への指摘も見られる。また、個別の見解として「材料価格や人件費等の上昇で、利益の確保が難しい」、「民間需要が減少している」などの声が聞かれた。

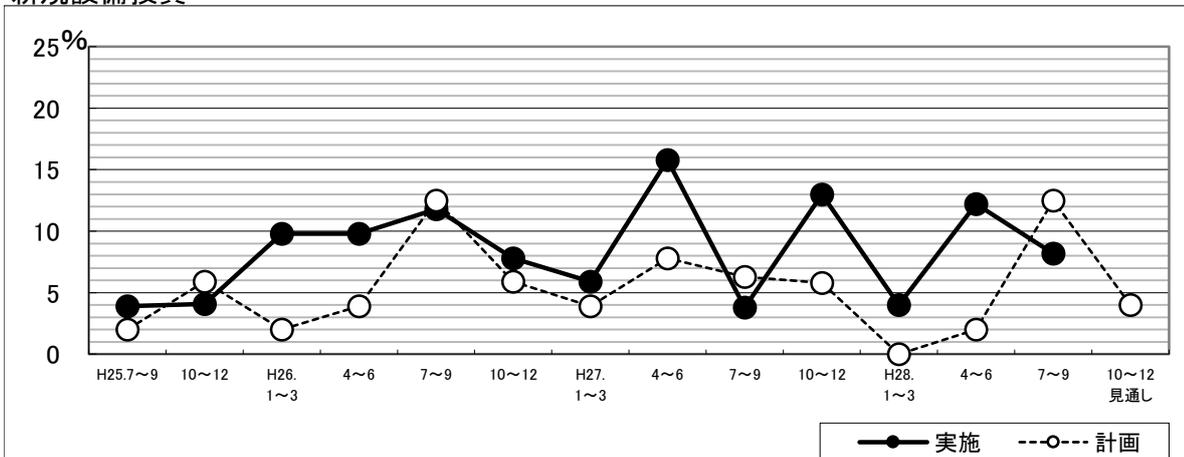
小売業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

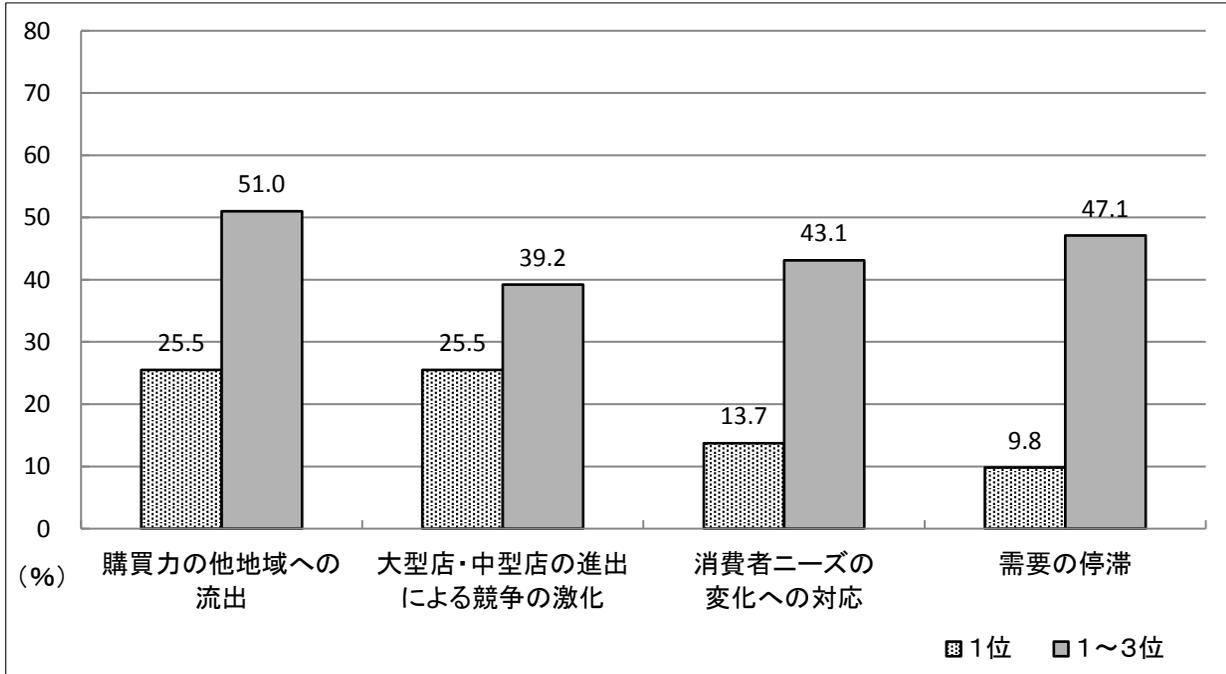
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H25.7~9	▲ 17.7	5.9	▲ 31.3	▲ 28.6	0.0	▲ 28.0
10~12	▲ 23.5	23.6	▲ 25.5	▲ 26.0	4.4	▲ 30.0
H26.1~3	▲ 23.6	26.0	▲ 31.4	▲ 33.3	▲ 8.5	▲ 31.4
4~6	▲ 37.3	39.2	▲ 47.0	▲ 25.5	2.1	▲ 40.0
7~9	▲ 45.1	31.4	▲ 46.0	▲ 28.0	▲ 2.3	▲ 43.1
10~12	▲ 33.4	37.2	▲ 43.2	▲ 23.5	▲ 4.7	▲ 38.0
H27.1~3	▲ 27.5	11.8	▲ 39.2	▲ 26.0	▲ 8.5	▲ 35.3
4~6	▲ 27.5	23.5	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 4.6	▲ 29.5
7~9	▲ 26.4	18.5	▲ 35.2	▲ 25.9	▲ 6.1	▲ 29.6
10~12	▲ 25.5	21.6	▲ 23.6	▲ 18.0	▲ 8.9	▲ 20.0
H28.1~3	▲ 39.3	25.5	▲ 43.2	▲ 29.4	▲ 15.2	▲ 35.3
4~6	▲ 35.3	7.8	▲ 51.0	▲ 31.4	▲ 4.7	▲ 41.1
7~9	▲ 35.3	13.7	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 11.1	▲ 36.0
10~12 見通し	▲ 36.0	19.6	▲ 37.2	▲ 29.4	▲ 4.5	▲ 31.2



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・大型店の進出による顧客流出のため、今後も売上は減少していくと思われるので、別分野進出を常に心がけている。
- ・高齢者の移住により町内消費が減少したことと、材料、仕入れ金額の増加によりやや悪化気味である。

小売業の景況

近畿経済産業局が毎月公表する大型小売店販売状況から県内（百貨店＋スーパー）の動きを見ると、衣料品の不振に加え食料品なども前年並みにとどまったことなどから、平成28年7月が前年同月比▲1.0%の60億41百万円、8月が同▲0.4%の62億75百万円と、2か月連続の前年割れとなっている。ちなみに、そのほかの業態では、コンビニエンスストア販売が飲料や惣菜等に動きが見られることなどから堅調を継続。ドラッグストアも品ぞろえの充実などから堅調となっているほか、家電大型専門店販売も白物家電等に動きが見られることなどから持ち直している。こうした状況から、本県の個人消費は、大型店など一部で足踏み感が見られるものの、総じてみれば緩やかに回復していることがうかがえる。

しかし、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中1項目が横ばい、2項目で改善となったものの、残る3項目は悪化傾向を示すなど、全体としては厳しい結果となった。ちなみに、項目別の状況を見ると、売上高が前期▲35.3→今期▲35.3、仕入単価（逆指数）が前期7.8→今期13.7、採算が前期▲51.0→今期▲45.1、資金繰りが前期▲31.4→今期▲35.3、従業員数が前期▲4.7→▲11.1、業況が前期▲41.1→今期▲36.0となっている。ただ、先行き（H28年10－12月期）については、売上高と仕入単価を除いた4項目で改善予測となっている。

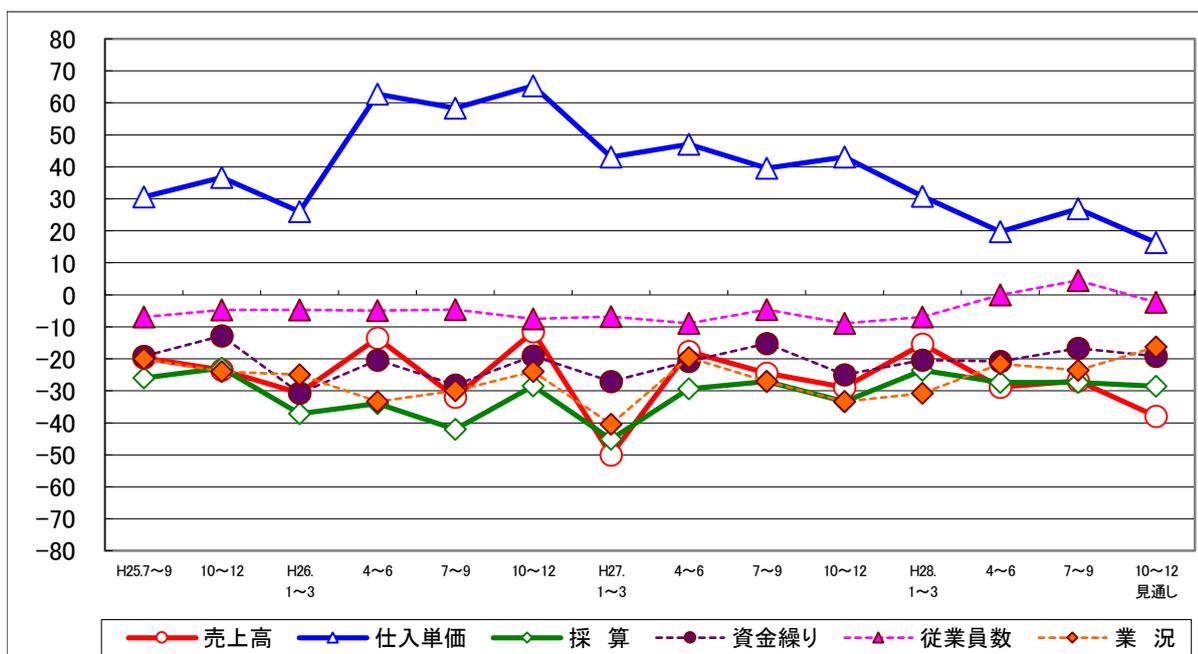
一方、新規設備投資の実施状況については、今期、計画の12.5%に対し実施が8.2%と実施が計画を下回ったほか、先行き（H28年10－12月期）についても、何らかの投資を考える企業が4.0%にとどまるなど、投資意欲は精彩を欠く展開が続くことが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「購買力のほか地域への流出」（1位に挙げた企業25.5%、1位～3位までに挙げた企業51.0%）への指摘が最も多く、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」（1位に挙げた企業25.5%、1位～3位までに挙げた企業39.2%）、「消費ニーズの変化への対応」（1位に挙げた企業13.7%、1位～3位までに挙げた企業43.1%）、「需要の停滞」（1位に挙げた企業9.8%、1位～3位までに挙げた企業47.1%）と続いている。そのほか、「高齢者の移住による町内消費の減少」、「材料、仕入れ価格の上昇」、「大型店の進出による顧客流出」といった悲観的な声が多く聞かれた。

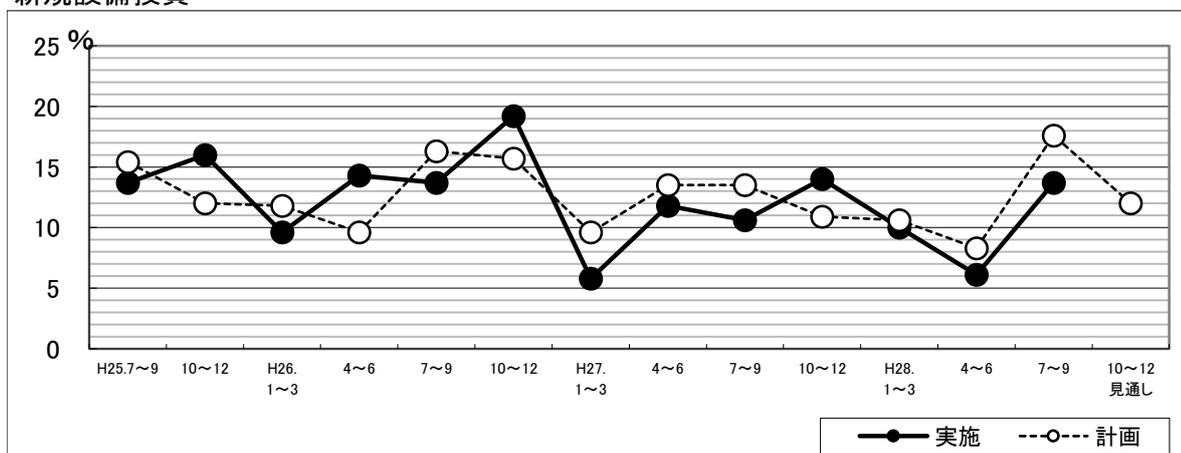
サービス業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

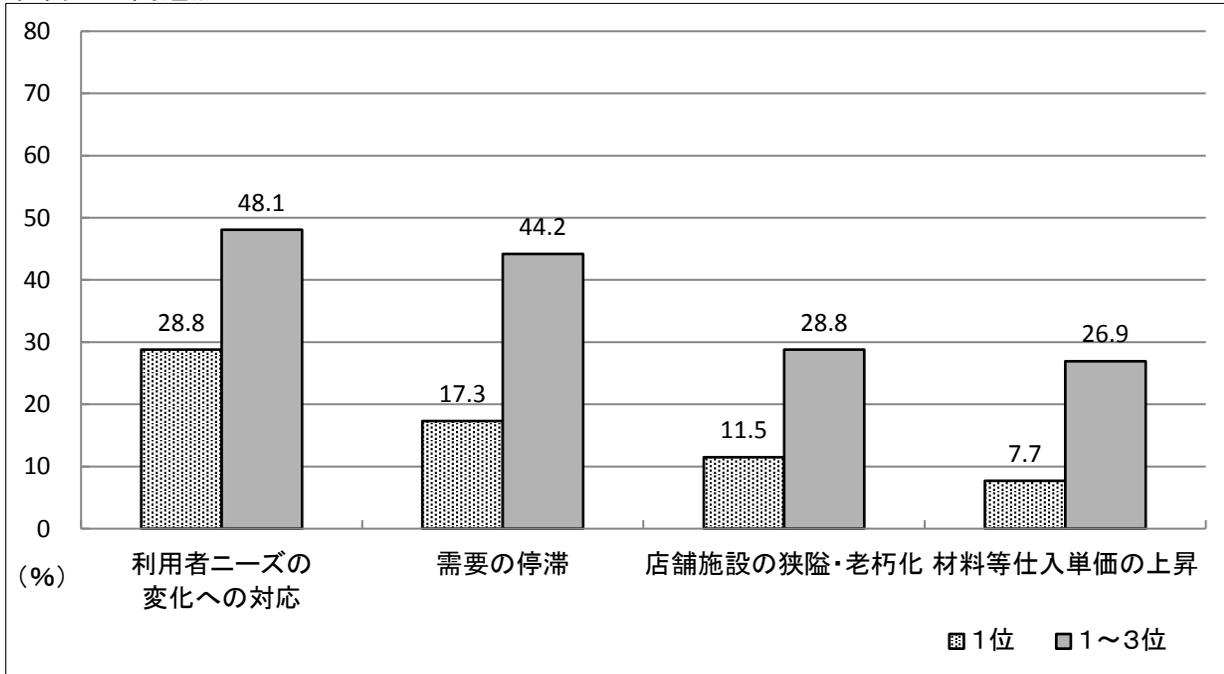
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H25.7~9	▲ 19.7	30.6	▲ 26.0	▲ 19.2	▲ 6.9	▲ 20.0
10~12	▲ 23.5	36.7	▲ 22.9	▲ 12.8	▲ 4.7	▲ 24.0
H26.1~3	▲ 30.7	26.0	▲ 37.2	▲ 30.7	▲ 4.7	▲ 25.0
4~6	▲ 13.5	62.7	▲ 34.0	▲ 20.4	▲ 4.9	▲ 33.4
7~9	▲ 32.0	58.3	▲ 42.0	▲ 28.2	▲ 4.6	▲ 30.0
10~12	▲ 11.5	65.3	▲ 28.5	▲ 19.1	▲ 7.5	▲ 24.0
H27.1~3	▲ 50.0	43.1	▲ 45.1	▲ 27.1	▲ 6.8	▲ 40.4
4~6	▲ 17.7	47.1	▲ 29.4	▲ 20.8	▲ 8.9	▲ 19.6
7~9	▲ 24.5	39.6	▲ 27.1	▲ 15.2	▲ 4.6	▲ 27.1
10~12	▲ 28.9	43.1	▲ 33.4	▲ 25.0	▲ 8.9	▲ 33.4
H28.1~3	▲ 15.4	30.8	▲ 23.6	▲ 20.4	▲ 6.9	▲ 30.8
4~6	▲ 28.9	19.7	▲ 27.4	▲ 20.8	0.0	▲ 21.6
7~9	▲ 26.9	26.9	▲ 27.4	▲ 16.7	4.5	▲ 23.6
10~12 見通し	▲ 38.0	16.3	▲ 28.6	▲ 19.2	▲ 2.3	▲ 16.3



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・高齢化に対して、美容業界では、訪問美容の講習をして、実用化に向けて頑張っている。
- ・猛暑の夏休みとなり、県外のお客様が8月初めから8月終わりまでまんべんなく利用が増えた。
- ・ブランドメニューを強化することで、他店との差別化をはかりたい。

サービス業の景況

総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国における7月のサービス関連産業売上高は28.6兆円で前年同月と同水準であった。産業大分類別の動向を見ると、増加した産業は「生活関連サービス業、娯楽業」(3.7兆円、同5.0%減)、「教育、学習支援業」(0.3兆円、同3.5%減)など3産業となっている。一方、7月のサービス産業関連事業への従事者数は2,881万人で、前年同月比0.3%の増加であった。産業別では、「学術研究、専門・技術サービス業」(178万人、前年同月比1.8%増)、「情報通信業」(200万人、同1.7%増)など7産業での増加となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中3項目が改善、2項目が悪化、残り1項目が横ばいとなっている。ちなみに、項目別では、売上高が前期▲28.9→今期▲26.9、仕入単価(逆指数)が前期19.7→今期26.9、採算が前期▲27.4→今期▲27.4、資金繰りが前期▲20.8→今期▲16.7、従業員数が前期0.0→今期4.5、業況が前期▲21.6→今期▲23.6となっている。こうした状況から、県内のサービス業では未だ一進一退の状況にあることがうかがえる。また、先行き(H28年10-12月期)についても、売上高、採算、資金繰り、従業員数の4項目で悪化予測となっており、前回同様、今しばらく予断を許さない状況が続くとみるべきであろう。

一方、新規設備投資については、計画17.6%に対し実施が13.7%となりまずまずの状況となったほか、先行き(H28年10-12月期)についても12.0%の企業で何らかの設備投資を計画しているなど横ばいで推移することが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「利用者ニーズの変化への対応」(1位に挙げた企業28.8%、1位~3位までに挙げた企業48.1%)が最も多く、次いで「需要の停滞」(1位に挙げた企業17.3%、1位~3位までに挙げた企業44.2%)が続いている。それ以外では、「店舗施設の狭隘・老朽化」や「材料等仕入単価の上昇」を指摘する企業も比較的多く見られた。そのほか、個別企業の見解としては「美容業界では講習会の開催により高齢化への対応を図っている」「ブランドメニューを強化することによるほか店との差別化を図りたい」など前向きな対策を講じる声も聞かれ、今後の動向に期待したい。

全国・福井景気動向 平成28年7月～9月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 25.8	20.1	▲ 25.3	▲ 15.8	▲ 3.8	▲ 23.9
	製造業						
	DI値	▲ 20.5	19.9	▲ 21.9	▲ 13.8	▲ 0.6	▲ 19.6
	建設業						
	DI値	▲ 15.2	25.4	▲ 17.4	▲ 9.0	▲ 5.2	▲ 15.3
	小売業						
	DI値	▲ 39.2	11.0	▲ 34.0	▲ 21.7	▲ 4.5	▲ 35.1
福井	サービス業						
	DI値	▲ 22.6	25.2	▲ 23.9	▲ 15.4	▲ 4.6	▲ 21.3
	全体						
	DI値	▲ 20.9	21.6	▲ 29.2	▲ 16.8	▲ 6.8	▲ 23.3
	製造業						
	DI値	▲ 5.5	25.7	▲ 7.9	2.6	▲ 8.3	▲ 13.2
	建設業						
	DI値	0.0	20.9	▲ 33.3	▲ 8.4	▲ 18.2	▲ 12.5
小売業							
DI値	▲ 35.3	13.7	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 11.1	▲ 36.0	
サービス業							
DI値	▲ 26.9	26.9	▲ 27.4	▲ 16.7	4.5	▲ 23.6	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

